



# 学校だより

令和3年2月26日

さいたま市立植竹小学校

〒331-0813 さいたま市北区植竹町2-1

TEL 048-663-7627

FAX 048-663-9885

E-mail uetake-e@saitama-city.ed.jp

3月号

学校教育目標 ○すすんでまなぶ子 ○たすけあう子 ○げんきな子

児童数 746名

## この一年の重み

校長 野津 美智代

あと一ヶ月ほどで令和2年度が終わります。今年度は、コロナ禍での学校生活となりました。学校だけでなく、社会全体も新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。

4、5月の臨時休業、6月の分散登校からの開始となりましたが、心配していました授業時数、指導内容ともに予定どおり実施し、今年度を終えることができそうです。

授業日数は例年より9日程少なくなりましたが、その分、教員一人ひとりがねらいを的確に捉え、指導方法や学習形態を工夫して、授業の精度を上げることに専念しました。また、残念な決断でしたが、子どもたちが楽しみにしていた行事を中止または内容を変更し、練習時間等を短縮して実施したことも授業時数確保につながったと思います。

例年どおりが通用しない中、学校では、今まで当たり前のように行ってきたことが思うようにできませんでしたが、「限られた時間や空間の中で、子どもたちにどんな力を身に付けさせたいのか」「そのためにはどんな方法で行えばよいのか」「形ばかりで、本来の意味が失われて（形骸化して）いるものはないか」など、今年度は様々なことを考えていく中で、当たり前に行ってきたことのひとつ一つの意義について、熟考することができました。

その結果、規模の縮小や内容の変更はありましたが、「こちらのやり方が教育効果は高かった」「そんなに時間をかけなくても目標が達成できた」などの新たな発見や思いがけない子どもたちの成長がみられた場面が多々ありました。模索しながら生み出したものは、「コロナ禍が収束したら終わり」ではなく、教育活動をより質の高いものにするために今後も続ける必要があるものもあります。その意味においては、今年度は貴重な一年であったと感じます。

社会全体でも、医療や福祉等の現場への負担、経済活動の低迷など、未だ大きな打撃が続いていますが、オンライン化の浸透により、テレワークで仕事ができるようになって時間に余裕ができたり、家族で過ごす時間が多くなったり、また、健康への意識が高まったりと、苦境の中で新たな生活様式も生まれました。危機や困難に遭遇しても、悲観することなく、様々な知恵を出し合い、協働しながら社会的変化を乗り越えて新たな価値を見出すそんな一年になりました。

保護者の方々におかれましては、不安を抱えながら学校へお子さんを送り出す日々であったことと思いますが、様々な面で、御理解、御協力いただきましたこと、感謝申し上げます。地域の方々にも、学校を温かく支えていただきましたこと、深く御礼申し上げます。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。